

# ロス高全体の37・4%が万引き

## カメラ設置は7割、EAS、ミラーは3割程度

### 全国万引被害実態調査

全国万引犯罪防止機構と警視庁・東京万引き防止市民合同会議による合同調査「2012年度全国万引被害実態調査」の内容が報告された。その結果、「服飾・服飾雑貨」など3業種が平均ロス率1%を超え、全業種平均では0・57%。ロス高全体の37・4%が万引きと見られるもので、金額では715億円に及んだ。また、防止対策として導

入している防犯設備については、防犯カメラ設置が69・0%と高かったが、ミラー29・0%、EAS（万引防止装置）28・7%だった。

小売業の万引被害実態は把握困難とされるが、現状把握を目的に全国万引犯罪防止機構と警視庁では各々小売業向けの調査を実施。調査対象の小売業の負担軽減を図るため、今回は両者が合同で1683社を対象に調査を実施。従来を大幅に上回る620社から回答を得た。

増加長引く経済不況」は35・6%と大幅に減少。万引犯罪被害件数は5万9103件で、1社平均年間被害件数は131件。確保した万引犯は3万4084人で、確保人数は1社平均74人。確保した万引犯の職業別構成比は、今回初めて調査対象に加えた「高齢者」が最も多く32・2%。万引犯罪の中心層が、青少年から高齢者にシフトしている状況を裏付けた。

年間ロス金額とその原因については、不明ロス率が全業種平均で0・57%、1911万（億円）に及び、万引ロス高はロス全体の37・4%、715億円。業種別ロス率を見ると、最も高いのが「服飾・服飾雑貨」の1・36%で、「HC（ホームセンター）・カー用品」1・12%、ドラッグストア1・

02%とロス率1%を超えたのが3業種。不明ロス金額のうち万引被害の割合は、「楽器・CD」68・4%、「書籍・文具」66・3%、「スポーツ用品」53・

「最近の万引犯罪の原因」と考えられるものは「との問い（複数回答）」には、「万引犯罪に対する犯罪意識欠落」が66・1%と最も多く、次いで「店舗大型化による守備範囲拡大」46・6%。近年50%以上だった「失業者の

226社（36・5%）、「保安警備員を配置」202社（32・6%）の順。防犯設備では、「ミラー設置」180社（29・0%）、「万引防止装置導入」178社（28・7%）だった。

3%。万引犯罪の防止策として、各店舗に実施させている取り組みは、「従業員にお客様への声かけ」が501社（80・8%）で、以下「防犯カメラ設置」428社（69・0%）、「商品陳列を工夫

した。226社（36・5%）、「保安警備員を配置」202社（32・6%）の順。防犯設備では、「ミラー設置」180社（29・0%）、「万引防止装置導入」178社（28・7%）だった。

3%。万引犯罪の防止策として、各店舗に実施させている取り組みは、「従業員にお客様への声かけ」が501社（80・8%）で、以下「防犯カメラ設置」428社（69・0%）、「商品陳列を工夫

した。226社（36・5%）、「保安警備員を配置」202社（32・6%）の順。防犯設備では、「ミラー設置」180社（29・0%）、「万引防止装置導入」178社（28・7%）だった。

3%。万引犯罪の防止策として、各店舗に実施させている取り組みは、「従業員にお客様への声かけ」が501社（80・8%）で、以下「防犯カメラ設置」428社（69・0%）、「商品陳列を工夫

した。226社（36・5%）、「保安警備員を配置」202社（32・6%）の順。防犯設備では、「ミラー設置」180社（29・0%）、「万引防止装置導入」178社（28・7%）だった。

3%。万引犯罪の防止策として、各店舗に実施させている取り組みは、「従業員にお客様への声かけ」が501社（80・8%）で、以下「防犯カメラ設置」428社（69・0%）、「商品陳列を工夫

した。226社（36・5%）、「保安警備員を配置」202社（32・6%）の順。防犯設備では、「ミラー設置」180社（29・0%）、「万引防止装置導入」178社（28・7%）だった。